

【 復活讃詞 第3調 】

てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの
 天在者樂 地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら
 悦 主 其 臂 力 顯

わして、しをもってしをほろぼし、ふ復
 死 以 死 滅 ぼ し 復

くかつのはじめとなり、われらをぢごく
 活 首 我 等 地 獄

のはらよりすくい、せかいにおおいな
 腹 救 世 界 大

るあわれみをたまいたればなり。
 憐 賜

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつもよよに、アミン。
 何時 世 世

【 日本の亜使徒ニコライの讃詞 第4調 】

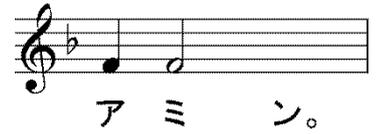
しととひとしくどうぎなるものちゅう
 使徒等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

司祭) (黙誦： ^{せい かみ せいじゃ うち いこ} 聖なる神、^{せいさん こえ もつ かしょう} 聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
^{さんえい ことごと てんぐん ふくはい ばんぶつ む ゆう} ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と
^{ひと なんぢ ぞう しょう よ つく なんぢ もろもろ たまもの もつ これ かざ} なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
^{ねが もの ちえ めいご あた つみ おこな もの す そのすくい ため つうかい} 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔
^{た われらいや ふとう なんぢ しょぼく こ ととき おい なんぢ せい} を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
^{さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの} る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と
^{しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ} なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
^{もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ} 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
^{せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい} を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
^{しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ} 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋 ^{けだしわ かみ なんぢ せい} 我が神よ、爾は聖なり、^{われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ} 我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
 に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅 、 せ い な る
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅 、 せ い
聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 毅
聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こう え い は ち ち と こ と せ い しん
光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じょう せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのもものよ、われらを
 殺 聖 常 生 者 我 等 を
 あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 提綱 (プロキメン) 主日第3調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。
 爾 神

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、

わがかみにうたいうたえよ、わがお王
 我 神 歌 歌 我 王
 うにうたいうたえよ。
 歌 歌

誦經) 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、

わがかみにうたいうたえよ、わがお王
 我 神 歌 歌 我 王
 うにうたいうたえよ。
 歌 歌

誦經) 我が神に歌い歌えよ、



【 使徒經 (アポストロス) 250 端 コロサイ書 1 章 12 節～18 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが^{じん たつ}コロサイ人に^{しょ よみ}達する書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹みて^き聽くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{われかみちち} 我神父に^{かんしゃ}感謝す、^{そのわれら} 其我等を^め召して、^{しょせいと} 諸聖徒と^{とも} 與に^{こうめい} 光明の^{ぎょう} 業に^{ぶん} 分あらし

^{むる} むるを^{もつ} 以て^{かれ} なり。彼は^{われら} 我等を^{くらやみ} 黒暗の^{けん} 權より^{すく} 拯いて、^{そのしあい} 其至^{こくに} 愛の子の^{うつ} 國に^{けだしわれら} 遷せり、^{かみ} 蓋^{かたち} 我等

^{かれ} 彼に^よ 由りて、^{そのち} 其血を^{もつ} 以て、^{あがない} 贖^{およ} 及び^{つみ} 罪の^{ゆるし} 赦^え を^{かみ} 得たり。彼は^み 見る^べ 可から^{かみ} ざる^{かたち} 神の^{かたち} 像に

^{ばんぶつ} して、^{さき} 萬物の^{うま} 先に^{もの} 生れたる^{もの} 者なり。蓋^{けだしばんぶつ} 萬物は^{かれ} 彼に^よ 由りて^{つく} 造られたり、^{てん} 天に^あ 在る^{もの} 者、^ち 地

^あ 在る^{もの} 者、^み 見る^べ 可き^{もの} 者、^み 見る^べ 可から^{もの} ざる^{もの} 者、^{あるい} 或は^{ほうざ} 寶座、^{あるい} 或は^{しゅせい} 主制、^{あるい} 或は^{しゅりょう} 首領、^{あるい} 或

^{けんべい} は^{いつさい} 權柄、^い 一切^{かれ} 彼を^{もつ} 以て、^{かつかれ} 且^{ため} 彼の^{つく} 爲に^{かみ} 造られたり。彼は^{ばんぶつ} 萬物より^{さき} 先にして、^{ばんぶつ} 萬物は^{かれ} 彼

^よ 由りて^た 立つ。且^{かつかれ} 彼は^{そのからだ} 其體^{きょうかい} たる^{かしら} 教會の^{かみ} 首なり、^{かみ} 彼は^{げんし} 元始にして、^し 死の中^{うち} より^{はじ} 首めて

^{うま} 生れたる^{もの} 者なり、^{そのばんじ} 其萬事に^{おい} 於て^{しゅ} 首たらん^{ため} 爲なり。

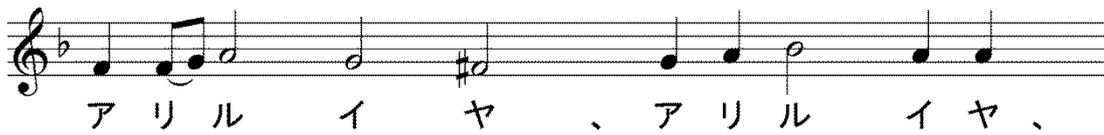
(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。光のうちにある聖徒たちの特權にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。御子は、見えない神のかたちであって、すべての造られたものに先だって生れたかたである。万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主權も、支配も權威も、みな御子にあって造られたからである。これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている。そして自らは、そのからだなる教會のかしらである。彼は初めの者であり、死人の中から最初に生れたかたである。それは、ご自身がすべてのことにおいて第一の者となるためである。

司祭) ^{なんぢ} 爾に^{へいあん} 平安、

誦經) ^{なんぢ} 爾の^{しん} 神にも、^ア アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第3調 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

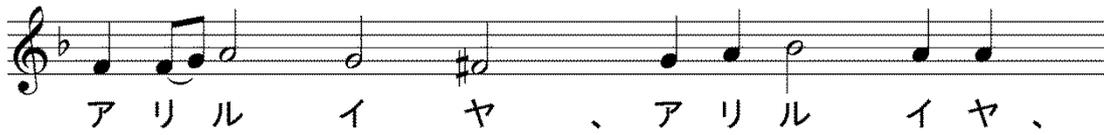


ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{しゅ}主よ、^{われなんぢ}我爾 ^{たの}を ^{ねが}待む、願わ^{われよよ}くは我 ^{はぢ}世 ^え世に ^え差 ^えを得ざらん、

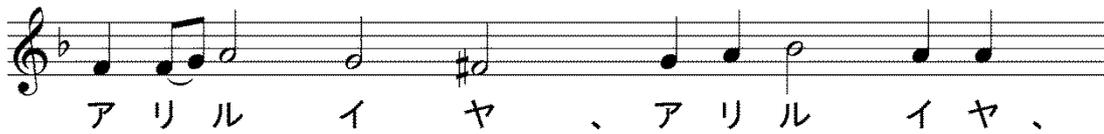


ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^わ我が ^{ため}爲に ^{けんご}堅固なる ^{かくれが}避 ^{われ}所 ^{つね}となりて、我に ^{かく}常に ^え隠 ^{たま}るを得しめ ^え給え、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

司祭) (黙誦: ^{ひと}人を ^{あい}愛する ^{しゅさい}主 ^わ宰 ^{ころ}よ、我 ^{かみ}が ^し心 ^{ちえ}に ^{いさぎよ}神 ^{ひかり}を知る ^{かがや}智慧 ^わの ^{しねん}淨 ^えき ^え光 ^えを ^え輝 ^えかし、我 ^えが ^え思 ^え念

^めの ^{ひら}目を ^{なんぢ}啓 ^{ふくいん}きて、爾 ^{おしえ}が ^{さと}福 ^{たま}音 ^わの ^{うち}教 ^{なんぢ}を ^{ふく}悟 ^{いましめ}らしめ ^え給え、我 ^えが ^え衷 ^えに ^え爾 ^えの ^え福 ^えたる ^え誠 ^えを

^{おそ}畏 ^{おそれ}る ^い畏 ^{われら}をも ^{ことごと}入れて、我 ^{にくたい}等 ^{よく}が ^ふ悉 ^{およ}くの ^{なんぢ}肉 ^{よろこ}體 ^{ところ}の ^え慾 ^えを ^え踏 ^えみ、凡 ^えそ ^え爾 ^えの ^え喜 ^えぶ ^え所

^{おも}を ^か思 ^{おこな}い ^{ぞくしん}且 ^{せいかつ}つ ^す行 ^{いた}いて、属 ^{たま}神 ^{けだし}の ^{かみ}生 ^{かみ}活 ^{かみ}を ^{かみ}過 ^{かみ}ぐる ^{かみ}を ^{かみ}致 ^{かみ}させ ^{かみ}給 ^{かみ}え、蓋 ^{かみ} ^{かみ}ハ ^{かみ}リ ^{かみ}ス ^{かみ}ト ^{かみ}ス ^{かみ}神 ^{かみ}よ、

^{なんぢ}爾 ^わは ^{たましい}我 ^{からだ}が ^{こうしょう}靈 ^{われらなんぢ}と ^{なんぢ}體 ^{むげん}と ^{ちち}の ^{しせいしぜん}光 ^{しせいしぜん}照 ^{しせいしぜん}なり、我 ^{しせいしぜん}等 ^{しせいしぜん}爾 ^{しせいしぜん}と ^{しせいしぜん}爾 ^{しせいしぜん}の ^{しせいしぜん}無 ^{しせいしぜん}原 ^{しせいしぜん}の ^{しせいしぜん}父 ^{しせいしぜん}と ^{しせいしぜん}至 ^{しせいしぜん}聖 ^{しせいしぜん}至 ^{しせいしぜん}善 ^{しせいしぜん}にし

^{いのち}て ^{ほどこ}生 ^{なんぢ}命 ^{しん}を ^{こうえい}施 ^{けん}す ^{いま}爾 ^{いつ}の ^{よよ}神 ^{よよ}と ^{よよ}に ^{よよ}光 ^{よよ}榮 ^{よよ}を ^{よよ}獻 ^{よよ}ず、今 ^{よよ}も ^{よよ}何 ^{よよ}時 ^{よよ}も ^{よよ}世 ^{よよ}世 ^{よよ}に、ア ^{よよ}ミ ^{よよ}ン。)

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書85端 17章12~19節 】

司祭) ^{えいち}睿 ^{つつし}智、 ^た肅 ^{せいふくいんけい}みて ^き立 ^{しゅうじん}て ^{へいあん}聖 ^{へいあん}福 ^{へいあん}音 ^{へいあん}經 ^{へいあん}を ^{へいあん}聽 ^{へいあん}く ^{へいあん}べ ^{へいあん}し、衆 ^{へいあん}人 ^{へいあん}に ^{へいあん}平 ^{へいあん}安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聽くべし、

司祭) 彼の時イイスス或村に入るに、癩病者十人彼を迎え、遠く立ちて、聲を揚げて曰
えり、イイスス夫子よ、我等を憐め。イイスス彼等を視て、曰えり、往きて、己を司祭等
に示せ。彼等往く時潔まれり。其中一人、己の愈されしを見て、返りて、大聲を以て
神を讚榮し、イイススの足下に俯伏して感謝せり、彼はサマリヤの人なり。イイスス曰え
り、潔まりし者は十人に非ずや、其九は何處に在るか、此の異族人の外、如何ぞ返り
て、光榮を神に歸せざる。又彼に謂えり、起ちて往け、爾の信は爾を救えり。

(比較用 口語訳) イエスがある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方
で立ちとどまり、声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエス
は彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行
く途中で彼らはきよめられた。そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめた
たえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは
彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。神
をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。それから、その人に言わ
れた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。



は なんぢに き す 。
爾 歸

※聖体礼儀③（金ロイオアン聖体礼儀）へ